

ボランティアセンターからのお知らせ

★令和6年度赤い羽根共同募金〈一般公募〉の助成について

長岡京市内で地域における福祉の増進を目的とした地域住民を対象とした活動に対する助成及び地域福祉活動で使用する物品・備品の購入助成を行います。

- (1) 地域住民を対象とした活動に対する助成
- (2) 地域福祉活動で使用する物品・備品の購入助成



助成限度額 (1) (2) とともに50,000円

募集期間 (1) (2) とともに令和6年9月9日(月) から令和6年10月9日(水) まで

助成対象 長岡京市内で活動する住民団体、ボランティアグループ、福祉団体等で、定款・会則・事業計画書・予算書決算書の提出が可能な団体等

注意事項 ※(1) (2) とともに10%の自己資金が必要。(2) については助成決定後に支払われたものに限る。

※申請団体数により、希望に添えない場合がある。1団体で(1) (2) 両方申請の場合、審査により減額になる場合がある。

※令和6年度「赤い羽根共同募金一般公募助成」を受けた事業・団体は、令和6年度「歳末助け合い募金一般公募助成」の申請はできない。

詳細につきましては、社協ホームページにてご確認ください。申請書のダウンロードも可能です。申請書類の受け取りやご相談等につきましては、下記窓口までお問合せください。

赤い羽根共同募金って？

共同募金は地域での困りごと、社会的課題を解決する方法の一つです。

共同募金の寄付金は、「困っている方々を支える。支える方々を支える。」ために活用されています。

ボランティア活動者をはじめ、様々な地域課題の解決に取り組む民間団体を支援するしくみとして、また、市民のやさしさや思いやりを届ける運動として、市民が主体になって運動を進めています。

今年も10月より、共同募金運動が始まります。「じぶんの町を良くするしくみ」に、あなたも参加しませんか？



ボランティアだよりに関するお問い合わせは

長岡京市立総合交流センター 2階

社会福祉法人 長岡京市社会福祉協議会

〒617-0833 長岡京市神足2-3-1

月～土 8時30分～17時

TEL: 075-958-6912

FAX: 075-958-6909

URL: <http://www.nagaokakyo-shakyo.jp>

E-mail: info@nagaokakyo-shakyo.jp

自転車・原付バイクはバンピオ2番館地下の

4時間無料駐輪場へ、車は西口市営駐車場

(20分につき100円) をご利用ください。



【目次】



- 災害ボランティアセンターについて知ろう！
- 第52回長岡京市社会福祉大会が開催されました
- 若者世代が地域で活躍！ボランティアから始まるつながりづくり
- ボランティアセンターからのお知らせ

活動中の「もしも」について考えていますか？ 災害ボランティアセンターについて知ろう！

社会福祉協議会には災害ボランティアセンターがあります。災害ボランティアセンターは大きな災害が発生した時、ボランティア活動者と被災者をつなぐ場所です。

発災していないときからある災害ボランティアセンターとして、防災の取り組みやお互い様の地域づくりのお手伝いをしています。

命を守る！

ボランティア活動中に地震！どうしたらいい？



活動の幅を広げる！

ふだんの活動が、災害の時にはどう活かせる？

団体の会議や活動の場で、「もしも」について考えてみませんか？
災害ボランティアコーディネーターがお伺いします！ふだんの活動では見えなかった、新しい視点が見つかるかも。



災害ボランティアセンター



災ボラの情報は
こちらから！

長岡京市災害ボランティアセンター (担当: 吉岡)

TEL: 958-6912 FAX: 958-6909

E-mail: info@nagaokakyo-shakyo.jp

ボランティアセンターの情報はこちらからも御覧いただけます☆

Instagram



YouTube チャンネル



第52回長岡京市社会福祉大会が開催されました

令和6年7月17日（水）、長岡京市立中央公民館において、「第52回長岡京市社会福祉大会」が開催されました。第一部では、日ごろから福祉活動に寄与されている方々に市長よりきりしま賞、市長感謝状が贈呈され、社協会長より感謝状を贈呈いたしました。第二部では、「聴覚障害者と防災」をテーマにろう防災士 高塚 稔様よりご講演をいただきました。市内の取り組みとして、「バンダナ製作委員会」による「防災バンダナ」の紹介も行われました。



受賞者の皆様

おめでとう
ございます！

当会ボランティアセンター登録団体より、
ラララ太鼓山 ・ わくわくキッズ
がきりしま賞を受賞されました！



「ラララ太鼓山」

平成27年より家庭にある楽器を持ち寄ってだけでも参加できる楽器演奏グループを結成。地域の集まりや高齢者福祉施設等を訪問し、参加型の演奏会を行っておられます。



「わくわくキッズ」

平成16年より「普段できないようなやったことのないおもしろい遊びをたくさんしよう」という Motto のもと、大学生が中心となり活動を開始。乙訓の自然環境の中で小学校1年生～3年生を対象に学びのある体験の機会を提供されています。



サポートが必要、サポートができる、を一目で。「聞こえにくい」ことが見た目では分かりにくい難聴者。災害時に必要な情報がすぐに得られず、逃げ遅れてしまうことも。サポートが必要であることも、要約筆記や手話でサポートできることも、一目で分かるための防災バンダナ。講演会の内容と合わせ、啓発することができました。



若者世代が地域で活躍！

ボランティアから始まるつながりづくり



地域におけるボランティア活動に、市内の小学生や高校生による取り組みが始まっています！家でも学校でもない場所で、「だれかのためにできること」。ボランティアのたねが、少しずつ芽吹いてきています！

ボランティアの課題

- ★高齢化（60代以上が7割弱）
- ★固定化（いつも同じ顔ぶれ）
- ★「興味はあるけどやったことがない」
- ★10代の活動者は全活動人口の0.5%！



10年後、現在の活動者が引退した後・・・
「誰もが暮らしやすいまち」は実現している？

若者世代に「ボランティア」に触れる機会を作りたい！

10代の活動者の声を紹介

高校2年生 Tさん

サマーチャレンジボランティア2024で活動

自然に人助けが出来るような人になりたいという思いで活動しています。ボランティアは活動の種類が多く、全てでうまくできているかはわかりません。今後は災害支援などの自分がまだした事の無い活動をしたと考えています。



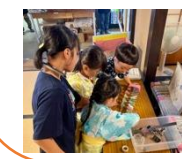
なりたい自分に近づくため、
新しい経験に挑戦する姿勢！



小学6年生 Kさん

子どもボランティアクラブで活動

「良いことだし、なんか楽しそう」と感じて活動に参加しました。学校よりも楽しく話せる、と感じる時も。大人の話がよく分からないこともあるので、説明はしてほしいと思います。楽しいけど、メンバーを増やすのは難しいと感じています。中学に入ってから部活がないときなどは活動したいです。



家と学校以外の場所で、自分が
活躍できることの気づき！



「ふくし」に関心を持ち、「ボランティア」で行動にうつしてみる。
「ボランティア」はだれもが暮らしやすいふくしのまちづくりの第一歩！



サマーチャレンジボランティア2024！活動が終わりました。

ボランティアセンター初企画のサマーチャレンジボランティア2024。高校生から一般の方まで、16名が障がい者支援施設でボランティア活動を体験。9月7日に行ったふりかえり会では、ボランティアの四原則のうち、「自主性」「社会性」にテーマを絞ってふりかえりを行いました。「利用者さんの普段のペースを崩さないよう、気をつけながら接するのが難しかった」という意見や、「利用者さんの方から教えてもらったり、仲間の輪に入れてもらって嬉しかった」という意見も。「障がいの有無に関わらず、お互いに気遣うことで居心地良く過ごせる」そんな発見があった活動になったようです。これからの活躍に、えうご期待！！

活動、がんばりました！！

